

科目名	日本史 Japanese History						
科目担当者	柴田 博子 SHIBATA Hiroko						
単位数	4	配当年次	2 年	授業形態	講義	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科〔専門教育科目 自由科目〕 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	歴史は、過去の人間社会を扱う。すなわち過去の復元である。復元には資料・史料が不可欠である。私たちは資料・史料に基づいて過去を理解し復元しなければならない。 『中学校社会科学習指導要領』社会の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視する」こと、「調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにする」とある。 そこで本科目では、歴史史料を取り扱う方法や、史料をもとに歴史事象を再構築する方法を、各自が調査と発表を通して修得する。						
授業の到達目標	①日本史教育の場に立つために必要な、教材研究ができる力を身に付ける。 ②日本史の基礎的な事項の知識を身に付ける。 ③史料の調査と発表を通して、史料の性格を把握し、歴史事象をまとめ、発表する力を修得する。						
授業計画・内容	1	日本史学修の前提	16	異国船打払い令・日米修好通商条約			
	2	歴史史料の活用方法	17	大政奉還上表文・王政復古の大号令			
	3	漢書地理志・後漢書東夷伝	18	版籍奉還の上表・廃藩置県の詔			
	4	律令・続日本紀	19	徴兵告諭・地租改正			
	5	日本三代実録・類聚三代格	20	民選議院設立建白書・讒謗律			
	6	将門紀・中右記	21	日清講和条約・三国干渉			
	7	玉葉・吾妻鏡	22	日英同盟協約・日露講和条約			
	8	東寺百合文書・建武式目	23	第二次日韓協約・韓国併合に関する条約			
	9	大乗院寺社雑事記・善隣国宝記	24	米騒動・水平社宣言・治安維持法			
	10	耶蘇会士日本通信・分国法	25	二十一か条の要求・石井=ランシング協定・ワシントン海軍軍縮条約			
	11	信長公記・多門院日記	26	リットン報告書・日満議定書			
	12	御触書寛保集成・政談	27	日独伊三国同盟・日ソ中立条約			
	13	御触書天保集成・甲子夜話	28	ハル=ノート・カイロ宣言・ヤルタ協定			
	14	世事見聞録・秘本玉くしげ	29	日米安全保障条約・沖縄返還			
	15	まとめ	30	まとめ			
授業外学修 (事前学修)	発表のための準備・調査研究・レジュメ作成 (100 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	復習と各学期中レポートの作成 (20 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	調査研究と発表				50%	①、②、③	
	小テスト・学期中レポート				20%	②	
	定期試験				30%	①、③	
成績評価基準	秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	笹山晴生ほか『日本史史料集』山川出版社 『図説 日本史通覧』帝国書院						
参考文献	『国史大辞典』吉川弘文館 『日本史大事典』平凡社 その他、講義中に適宜指示する。						
その他							